

6月2日 逍遙



今日6月2日は、京都本能寺に滞在中の織田信長が、家臣の明智光秀に早朝襲撃され、自刃した日(1582年)です。光秀のこの行動の理由については、怨恨説の外、最近では四国説(信長の四国政策を巡る対立)など、様々。

一方、この頃の鹿児島は、薩隅日の三州統一をほぼ達成した島津氏が、当時九州最大の戦国大名と目されていた豊後の大友宗麟を、日向高城・耳川の戦い(1578年)で破るなど、九州制覇に乗り出した頃です。当時の島津軍の強さの背景としては、近代兵器である鉄砲を組織的に多用したこと、また、「釣り野伏せ(予め隠れている味方の所まで敵を誘い出し、敵の側面を奇襲して大打撃を与える戦法)」など兵力の使い方が優れていたこと、さらには、団結力の強さなどが挙げられているようです。

カリスマ的と言われる一方で、自分の好みに合わない事を言葉で返す部下には激高し足蹴りにすることもあったリーダーと、かたや、あくまで組織力を重視する行動哲学、そのいずれにもそれぞれに、それぞれの時代が下した歴史の審判があったのでした。

次回「元には戻れない不安そして希望、のこころ」

「リーダーシップと組織マネジメント、のこころ」